

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 環境管理センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1. 学生、教職員に対して、サステイナブル・キャンパスを目指した環境と安全に関する教育を実施する。 2. 学生に対して環境問題に関する啓発活動を行う。 3. 各部局における環境教育との連携を図り、教育活動を充実させる。	1. 岡山大学環境報告書および同環境報告書のポスター、英文付ダイジェスト版を発行し啓発を行った。新入生に対して「環境安全ガイド」の発行・配布するとともに、啓発を目的とする地球温暖化対策に関するチラシを作成し、構成員全員にメール発信した。 教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を開講し、学生自らが環境マネジメントを理解し、行動するための知的バックグラウンドおよびサステイナブル・キャンパスを目指した先端技術が理解できる素養を教授した(H26後期 15回、受講者108名)。独自に行なった授業評価アンケート(5段階)の結果は、4.5となった。 2. サステイナブルセミナーを3回開催し、延べ参加者数は79名にとどまったが、昨年度まで参加者は学内教職員及び学生であったのに対し、本年度は学外からの参加者もあった。 3. 理系学部の実験、実習を始める学生に対して出前講義を実施した(13回、受講者数延べ623名)。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
平成25年度に実施した教育・啓発活動を継続するとともに、目標1に関連して、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」において独自の授業評価アンケート(5段階)を行い、評点の平均が3.5以上を目指す。また、目標2に関連して、サステイナブル・セミナーへの延べ参加者数100名以上を目指す。	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1. 科学研究費、共同研究費を始め、競争的資金の獲得に努め、研究基盤の充実を図る。 2. 環境管理センターは、広く社会において活用可能な研究課題を定めることにより、外部との共同研究等の推進に努める。	1. 文部科学省科学研究費補助金、環境省環境研究総合推進費や外部資金の獲得、外部との共同研究も行われ、平成26年度も継続を含め外部資金を獲得した。 2. 各教員が環境分野の基盤的、実用的な研究を行い、国内外の関連講演会・学会で発表または論文にて公表した。各年度の研究活動実績はセンター報である「環境制御」に掲載し公表している。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
平成25年度に引き続き、科学研究費及びその他競争的資金への申請を行い、獲得を図る。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 1. 一般市民が参加できる環境・安全に関する公開講演会やワークショップを開催する。 2. グローバルな課題であるエネルギー問題、環境保全、環境改善等に関する技術や知見を広く社会に還元する方策を検討し、学内外との環境コミュニケーションを推進する。 3. 地域行政に関わる審議会や専門委員会に参画し、積極的に社会貢献を行う。	1. 環境管理センター主催公開講演会「環境と人と化学物質」を開催し、3名の演者(うち2名は学外者)一般市民をはじめ教職員及び学生に対して化学物質の環境における安全性と健康影響及び化学物質の環境内挙動とそれによる暴露等に関する知識と考え方の基礎を教授した。118名の参加(うち学外者60名)があり、市民及び大学構成員とが一緒に学ぶ機会を提供した。また、今年度新たに、センターとして公開講座「岡山大学の環境活動を知る」を開講した。参加人数は14名で少なかったものの、アンケートからは、満足したという評価が得られた。 2. 化学物質管理、温暖化対策、環境マネジメント、環境報告書に関する情報を提供した。その他、廃棄物系バイオマスからのエネルギー利用技術に関する講演会開催等で広く社会に還元した。また、環境報告書を通じて学内外との環境コミュニケーションを推進した。 3. 国の有害廃棄物処理関連の各種委員会の委員長や委員、岡山県、岡山市等の審議会や委員会等の委員、また大学等環境安全協議会、UNEP関連等の委員を務め社会貢献を行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
平成25年度に実施した社会貢献活動を継続するとともに、環境管理センター公開講演会への一般市民の参加者数100名以上を目指す。	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理に関する監査、化学物質管理講習会等を継続実施する。 2. 化学物質管理について、管理方針、利用者の利便性を考慮したシステムの再構築を検討する。 3. 環境マネジメント委員会における専門部会と連携し、環境方針を踏まえた地球温暖化防止対策、省エネルギー対策、リユース推進を含む省資源対策について、学内関係組織と連携しながら対策及び体制整備を推進する。 4. 環境報告書のさらなる充実を図り、環境報告書の広報活動を通じて、意識啓発活動に努める。 5. 廃棄物管理、排水管理等の環境管理センターが関係する環境法令に関して、講習会等を実施する。	1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理に関する監査を実施した。書面審査(全部局)及び現地調査(12部局)を行った。化学物質管理講習会を6回、水質管理説明会を4回開催し、化学物質適正管理の推進を図った。 2. 化学物質管理について、水質管理を踏まえた管理強化に関し、進展を図った。 3. 環境マネジメント委員会にて環境目標・目的の点検評価、環境報告書の作成、地球温暖化対策・エネルギー管理、水質管理を含む化学物質管理、グリーン購入等について提案することにより、環境マネジメントを推進した。1.の講習会以外に地球温暖化対策説明会、グリーン調達方針説明会、リユース情報提供システム構築のための講習会を開催した。また、大学機能強化戦略経費(経営・管理の強化)として「水やりに依存しない緑化技術の開発」についての要求を行った。 4. 「環境報告書2014」を企画、作成し、9月に公表した。ダイジェスト版は英文を追加した日英混合版として発展させた。 5. 実験系廃棄物管理の適正管理を徹底するため、廃液処理技術指導員講習会を2回開催した。その他3.に示した講習会を開催した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
平成25年度に実施したセンター業務を継続するとともに、平成24年度からの目標である目標2に関連して、化学物質管理強化方針により整備された学内規定に基づき実際の知識の教育を促進する。	
【総括記述欄】	
教育領域に関しては、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」と「サステイナブル・セミナー」を開講し、環境に関する教育および啓発活動を行った。後者については、広報期間及び開催時間等の要因により参加目標に及ばなかったが、参加者からは好評であった。研究領域に関しては、他の領域の課題も多いなかで各教員の努力が認められるが、今後更にセンターとしての検討課題の取組みが望まれる。社会貢献に関しては、公開講演会「環境と人と化学物質」を開催し、市民、大学構成員、学生が一体となって学ぶ場を提供できてよい企画であったが、広報不足であったことは反省を要する。しかし、新たに企画した公開講座「岡山大学の環境活動を知る」の開講の他に様々な審議委員等を務めることより、目標達成できたと評価する。センター業務に関しては、環境マネジメント委員会の各専門部会の部会長、委員を務め、環境マネジメントの進展を図った。特に、排水管理に係わる規定を改正し、管理体制構築に向け前進があったことは評価されるものとする。経営管理の強化に資する大学機能強化戦略経費も要求した。 次年度は、化学物質管理及び排水管理について更に周知徹底するとともに、使用者の利便性を考慮した管理手法の確立と推進が必要と考える。さらに、実質的な省資源化対策、地球温暖化防止対策、省エネルギー対策の推進に関して、更なる成果が得られるように努力する所存である。	